



年頭の言葉

不動

毎年、年の初めに、その年の基本的な心構えを表す言葉を選んでいきます。

今年の年頭の言葉には、仏教の教えから「不動」を選ばせていただきました。

不動心とは、他のさまざまなる影響に動じることのない揺るぎない精神のこと。

「自分の信念に対し、不動を貫き通す」

その決意をこの言葉にこめました。

銀行から政治の世界に飛び込み、県議として7年目の道のりを歩んでいます。

「家族で食卓を囲み微笑みあう、そんな小さな幸せを守りたい」。その想いのもと、市民・県民の日々の生活を守る地道な活動を行ってまいりました。

中央政界の激動、党の信用失墜の末、厳しい向かい風が吹いています。だからこそ、一歩一歩の大切さを身にしみて感じます。

来春に迫った三度目の統一地方選挙に対し、たくさんの方がご心配くださっているのは、本当にありがたいことですが、今年も私らしく、先のことを憂うよりも、今、目の前にいる人を笑顔にすることに全力を注いで参りたいと思います。

二〇一四年元旦

千葉県議会議員

矢崎けんたろう

土曜授業を

はじめる前に。

学校教育法施行規則の一部が改正され、市町村教育委員会の判断で土曜授業が実施可能になりました。制度改正による市町村間の切磋琢磨は歓迎すべきですが、導入によって、教育現場及び子どもたちの学校生活に混乱が起らないよう、市町村へのフォローを要請しました。

12月定例会(12月17日)

文教常任委員会 質疑内容抜粋

◆土曜授業について

県下では来年度から

野田市が本格導入

昨年11月29日に交付・施行された、学校教育法施行規則の一部改正により、地方都市を中心に、来年度からの土曜授業開始が、相次いで発表されています。

千葉県下での導入見込みを聞いたところ、「正規の教育課程として、土曜授業を導入するのは、野田市のみ」という状況。野田市は、現在すでに土曜日に補修授業を行っているため、早期の実施となったということ。

保護者の7割が

土曜授業を歓迎

詰め込み教育からゆとり教育への転換は、深刻な学力低下を招き、その反省から生まれた新学習

Vol.25
12月議会
報告



県議会報告



【Profile】町立見明川小、市立見明川中出身、県立市川東高校、駒沢大学を卒業後、富士(現みずほ)銀行に入社(16年勤務)。2007年4月千葉県議会に出馬し初当選。2011年5月再選(現在2期目)。文教常任委員会。民主党千葉県議会議員会総務副会長。民主党千葉県連組織委員長。

<http://www.yazaki-kentaro.jp>

指導要領は、23年に小学校、24年に中学校、25年に高校へ全面導入されました。授業時間を確保するため、すでに、長期休暇を削ったり、1日の授業数を増やすなどの工夫をしている市町村も少なくありません。

土曜授業により、子どもたちの教育機会が拡大することに異論を唱える保護者は、多くはないでしょう。教育関連企業の調査によれば、約7割の保護者が土曜授業を歓迎しているという結果も出ています。

土曜授業により、子どもたちの教育機会が拡大することに異論を唱える保護者は、多くはないでしょう。教育関連企業の調査によれば、約7割の保護者が土曜授業を歓迎しているという結果も出ています。

浦安でも盛んですが、学校・家庭・地域が連携した、スポーツや体験などの土曜活動が根付いた市町村も多く、学力だけに留まらない複合的な成果をあげています。コミュニティによる育みの大切さを認識し、今後もそれを継承すべきと提言しました。

現場の混乱や子どもたち、教職員の急激な負担増を招かぬよう、県の積極的フォローを要望しました。

地域の根付いた土曜活動の継承を

人口減の時代、教育は都市間競争のテーマのひとつであり、ニーズを背景に、今後導入を目指す市町村が増えてくる可能性が高いと考えられます。目的はあくまでも子どもたちの教育魅力あふれる街づくりのためにも、市町村ごとの特色ある教育の追求は、歓迎すべきことかもしれません。しかし、都市間で教育格差が生じかねないことを危惧しています。今回の改正の目的を見据え、